

第2回 JBG チャレンジカップ 実施要綱

1. 出場資格

- (1) 大会開催時点で、本連盟の会員資格を持ち、以下の騎乗者資格を有すること。
 - 馬場馬術競技 A：日本社会人団体馬術連盟 騎乗者資格 B グレード、B'グレード
 - 馬場馬術競技 B：日本社会人団体馬術連盟 騎乗者資格 C グレード
 - 障害馬術競技 A：日本社会人団体馬術連盟 騎乗者資格 B グレード、B'グレード
 - 障害馬術競技 B：日本社会人団体馬術連盟 騎乗者資格 B'グレード、C グレード
- (2) 過去に全日本社会人馬術選手権大会や全日本実業団障害馬術大会、およびそれに相当する大会に出場経験がないこと、又は相当する経験が浅いこと。
- (3) 将来、全日本社会人馬術選手権大会や全日本実業団障害馬術大会に出場する目標を持つこと。
- (4) 馬場馬術競技においては日本馬術連盟制定 馬場馬術運動課目 A2 課目 2013 程度、障害馬術競技 A においては小障害馬術競技 80cm 程度、障害馬術競技 B においては小障害馬術競技 60cm 程度の騎乗技能を有すること。
- (5) 障害馬術競技 A と障害馬術競技 B の両方にエントリーすることはできない。
- (6) 基本的な馬匹の馬装と手入れができること。
- (7) 何らかの障害保険に加入していること。

2. 競技方法

(1) 馬場馬術競技 A、馬場馬術競技 B

(ア) 競技方法

競技規定は、国際馬術連盟馬場馬術競技会規程第 24 版及び日本馬術連盟競技会規程平成 25 年度版を採用する。

1. 馬匹は抽選によって決定し、各選手はその馬匹に騎乗して演技を行い、その成績によって勝敗を決する。
2. 演技は、日本馬術連盟制定 馬場馬術運動課目 A2 課目 2013 を行う。

(イ) 順位の決定

1. 得点率の高い方を上位とする。
2. 得点率が同じ場合は全審判員の総合観察点の得点の高い方を上位とする。
3. 2 で決まらない場合は C 点審判員の総合観察の得点の高い者を上位とする。
4. 3 で決まらない場合は抽選とする。

(2) 障害馬術競技 A、障害馬術競技 B

(ア) 競技方法

競技規定は、国際馬術連盟障害飛越競技会規程第 24 版及び日本馬術連盟競技会規程平成 25 年度版を採用する。3 反抗失権、基準タイムの設定など一部ローカルルールを

採用する。

1. 馬匹は抽選によって決定し、各選手はその馬匹に騎乗してコースを走行し、その成績によって勝敗を決する。
2. 障害馬術競技 A: コースは、最大 8 個からなる高さ 80cm まで幅 100cm までの単一またはダブルの垂直またはオクサー障害で構成される。
3. 障害馬術競技 B: コースは、最大 8 個からなる高さ 60cm までの単一のクロスバーまたは垂直障害で構成される。

(イ) 順位の決定方法

1. 減点の少ない者を上位とする。
2. 減点が高点の場合は、走行タイムの基準タイムとの差の絶対値の少ない者を上位とする。

3. 表彰

- (1) 馬場馬術競技 A、馬場馬術競技 B、障害馬術競技 A、障害馬術競技 B、それぞれ、上位 3 名を表彰する。

4. 服装

- (1) 正装(白またはベージュのキュロット、ジャケット、革長靴)が望ましいが、それに準じた服装も可とする。
- (2) 障害馬術競技においては、騎乗する際には必ず 3 点で固定された顎紐のついた防護帽を着用して顎紐をしっかりと締めること、ボディプロテクタを着用することを義務とする。連盟よりボディプロテクタの貸し出しを行うので、希望する選手は当日、申し出ること。
- (3) 馬場馬術競技においても、障害馬術競技と同様に騎乗する際には必ず 3 点で固定された顎紐のついた防護帽を着用して顎紐をしっかりと締めること。

5. その他

- (1) 参加者・馬取扱者・観覧者の事故疾病について、主催者は応急処置をするが、その責は負わない。
- (2) 出場者数及び馬匹、その他の理由により、やむを得ず要綱及び日程等の一部を変更して実施する場合もある。競技の詳細等については、当日の打ち合わせにおいて説明するので、注意すること。
- (3) 馬場馬術競技においては、準備運動は 4 分以内とする。
- (4) 障害馬術競技においては、準備運動は 3 分 2 飛越以内とする。クロス障害の飛越は回数に含めない。
- (5) 障害馬術競技において、選手の準備運動場における飛越回数オーバーは失権、逆標旗飛越についてはその都度罰金 3 万円を課す。
- (6) 拍車は 2.5cm 以内の丸拍又は棒拍とする。馬匹提供団体および審判長の指示に従うこと。